

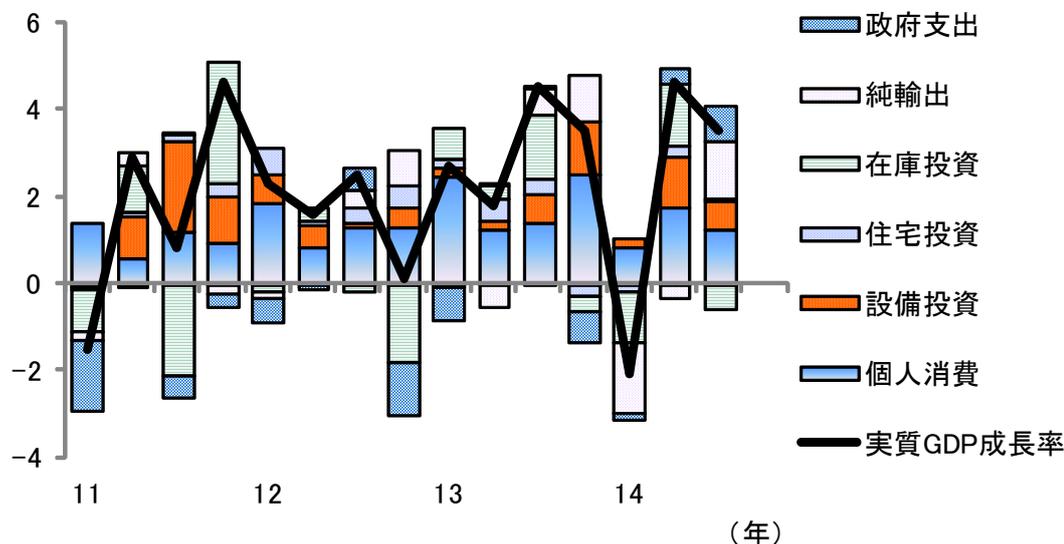
アメリカ経済グラフポケット (2014年11月号)

2014年11月10日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



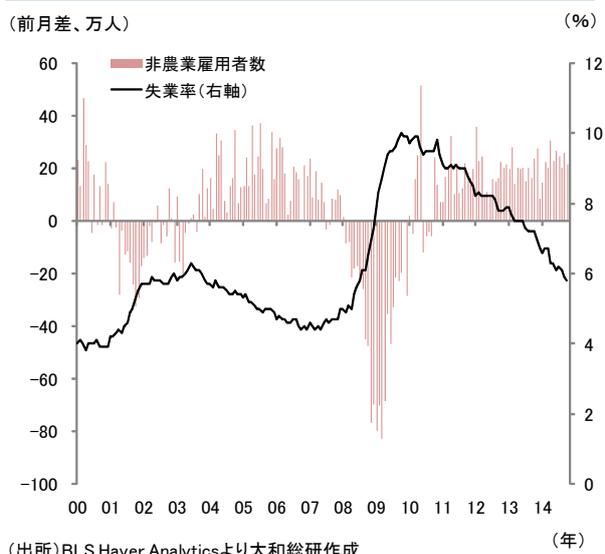
(前期比年率、%、%pt)	2012	2013				2014		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	0.1	2.7	1.8	4.5	3.5	-2.1	4.6	3.5
個人消費	1.9	3.6	1.8	2.0	3.7	1.2	2.5	1.8
設備投資	3.6	1.5	1.6	5.5	10.4	1.6	9.7	5.5
住宅投資	20.4	7.8	19.0	11.2	-8.5	-5.3	8.8	1.8
政府支出	-6.0	-3.9	0.2	0.2	-3.8	-0.8	1.7	4.6
輸出	1.5	-0.8	6.3	5.1	10.0	-9.2	11.1	7.8
輸入	-3.5	-0.3	8.5	0.6	1.3	2.2	11.3	-1.7
寄与度								
個人消費	1.3	2.5	1.2	1.4	2.5	0.8	1.8	1.2
設備投資	0.4	0.2	0.2	0.7	1.2	0.2	1.2	0.7
住宅投資	0.5	0.2	0.5	0.3	-0.3	-0.2	0.3	0.1
在庫投資	-1.8	0.7	0.3	1.5	-0.3	-1.2	1.4	-0.6
政府支出	-1.2	-0.8	0.0	0.0	-0.7	-0.2	0.3	0.8
輸出	0.2	-0.1	0.8	0.7	1.3	-1.3	1.4	1.0
輸入	0.6	0.0	-1.4	-0.1	-0.2	-0.4	-1.8	0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

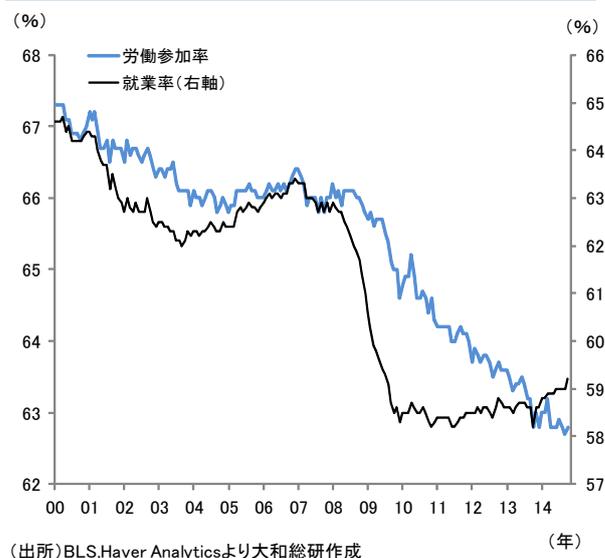
雇用環境¹

- ◆ 10月の失業率は5.8%と、前月から0.1%ポイント低下した。2008年7月以来の低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は21.4万人であり、9ヵ月連続で前月差が20万人台を超えた。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は、23.5万人増であった。

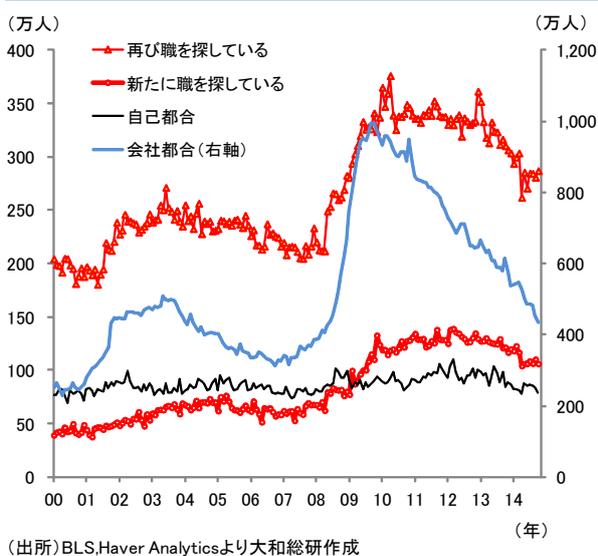
非農業雇用者数と失業率



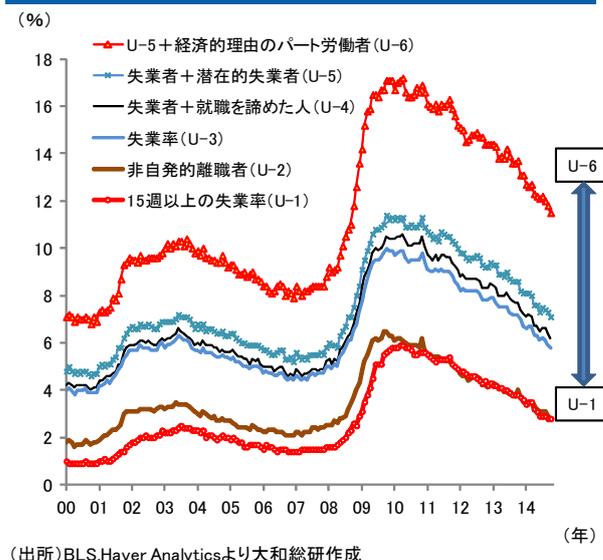
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

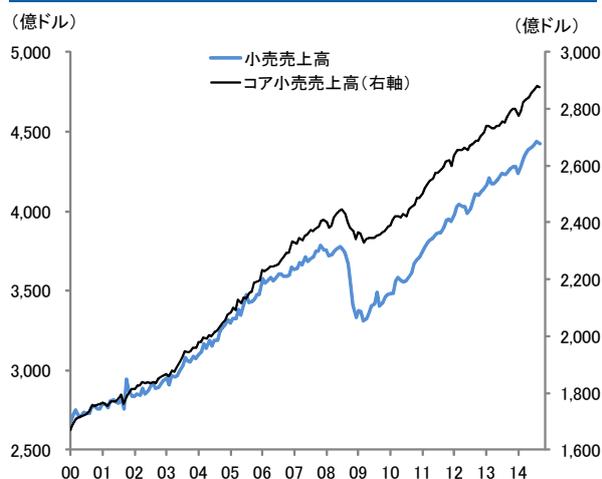


¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 土屋貴裕「米雇用者数は着実に増加し一部で賃金増える」(2014年11月10日)参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20141110_009116.html

個人消費

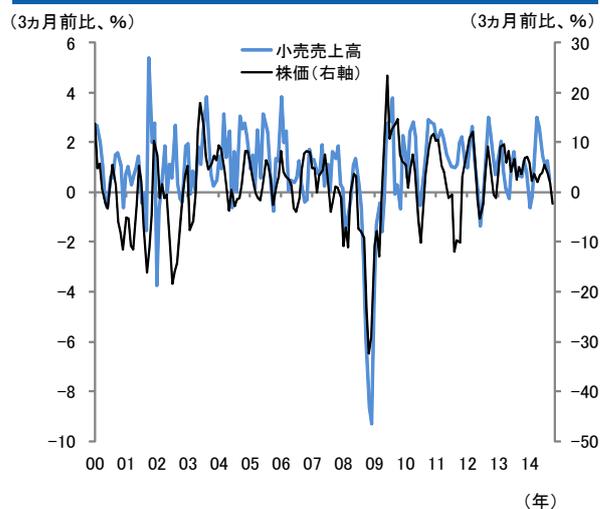
- ◆ 9月の小売売上高は前月比0.3%減で、1月以来初めての減少となった。コア小売売上高は前月と同水準であった。
- ◆ 10月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の84.6から86.9に上昇した。3ヵ月連続で上昇し、2007年7月以来の高水準となった。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比0.2%増で、年率換算では1,646万台であった。8ヵ月連続で1,600万台超の高水準が続く。

小売売上高の推移



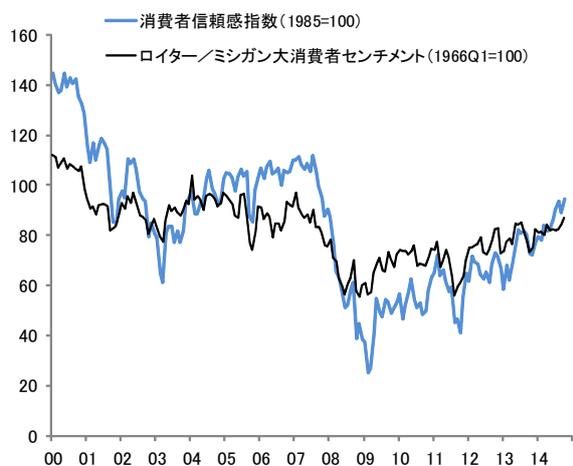
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



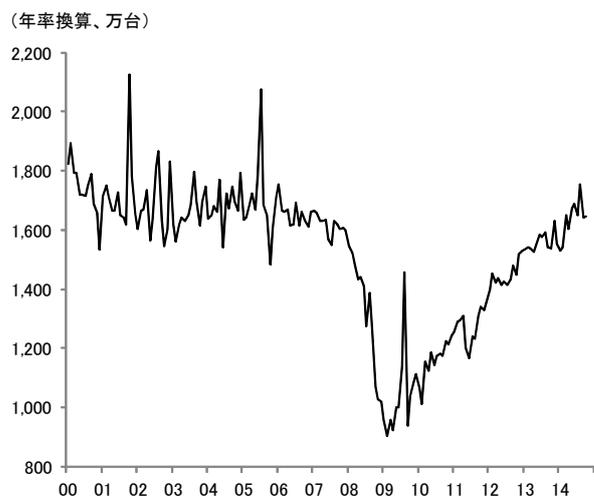
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

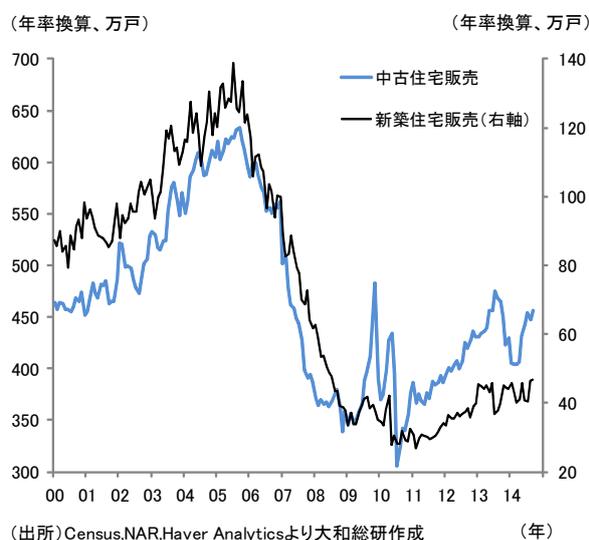


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

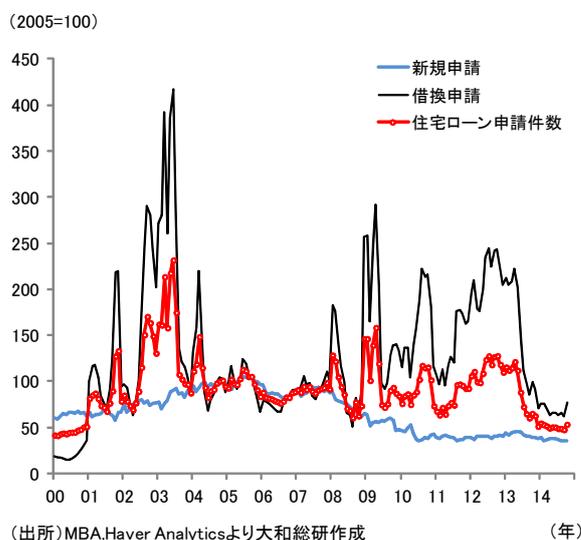
住宅市場

- ◆ 9月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、大幅に減少した前月から増加に転じ、前月比6.3%増の年率換算で101.7万戸であった。
- ◆ 9月の中古住宅販売（一戸建て）は前月比2.0%増で、年率換算456.0万戸であった。2013年9月以来の高水準となった。
- ◆ 9月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比0.2%増の年率換算で46.7万戸であった。2ヵ月連続で増加し、2008年7月以来の高水準であった。
- ◆ 8月の住宅価格は僅かに減少し、ケースシラー住宅価格指数（20都市）は4ヵ月連続で低下した。

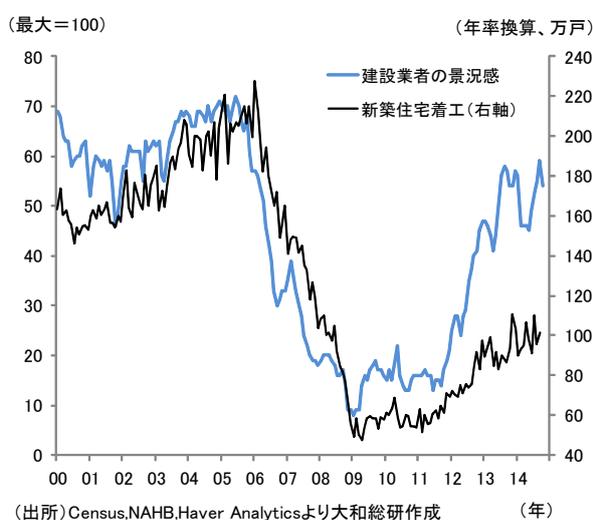
住宅販売（一戸建て）



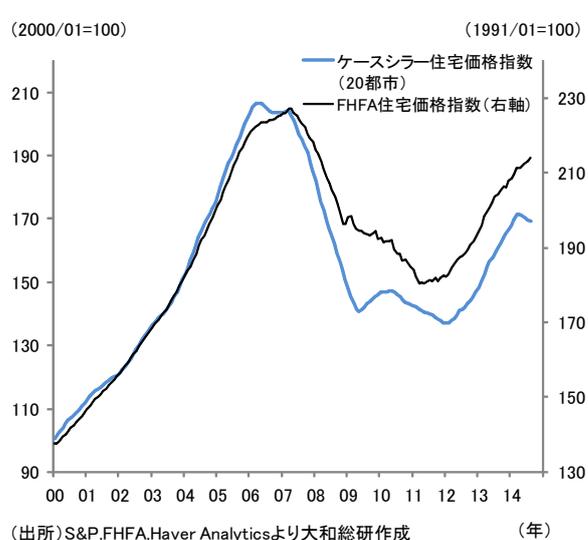
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



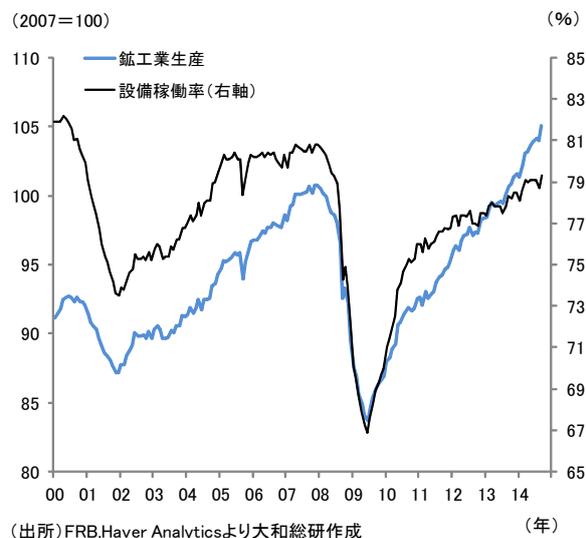
住宅価格



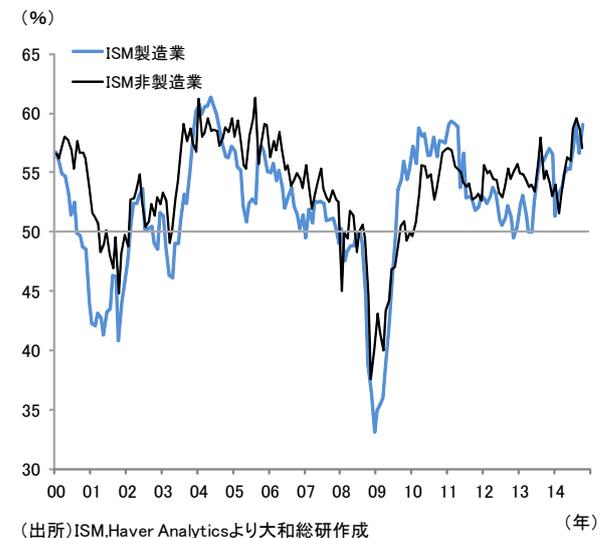
企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月から上昇に転じ、前月比1.0%上昇した。2012年11月以来の好調な伸びを記録した。指数全体の約75%を占める製造業も同0.5%上昇した。
- ◆ 9月の国防・民間航空機を除く資本財受注は減少に転じ、前月比1.6%減であった。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、前月比2.4%ポイント上昇の59.0%であった。2011年3月以来の高水準を記録した8月と同レベルに回復した。一方、非製造業指数は同1.5%ポイント低下し、57.1%であった。2ヵ月連続の低下であるが、景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回っている。

鉱工業生産と設備稼働率



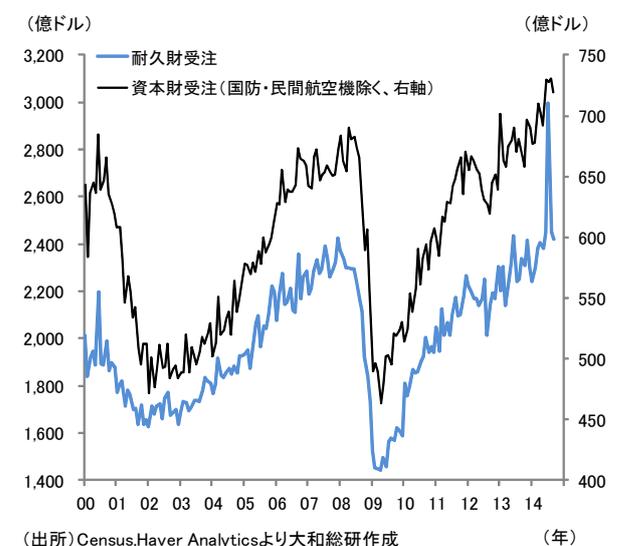
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



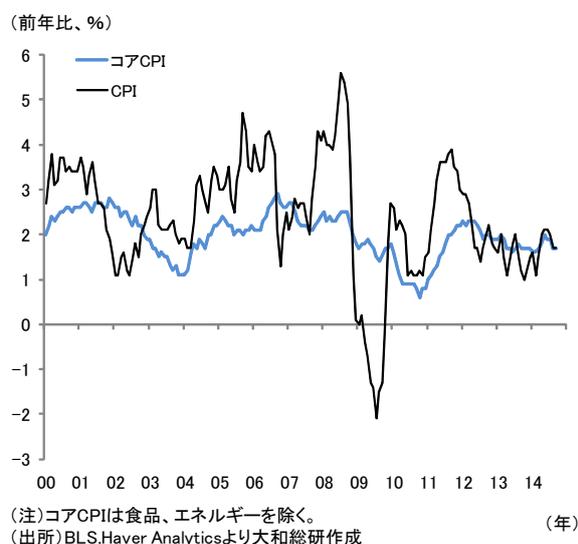
耐久財受注



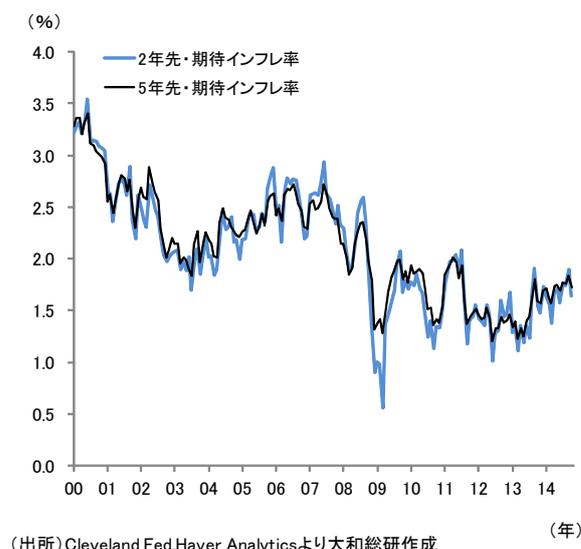
物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.7%上昇し、コアCPIも同1.7%上昇した。両指数ともにFRBの長期目標である2%を下回っている。
- ◆ 10月の2年先及び5年先期待インフレ率は低下し、インフレ予想はやや後退した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は80.54ドル/バレルと、9月末の91.16ドル/バレルから大幅に下落した。原油の豊富な供給見通しや、サウジアラビアによる原油価格の引き下げなどから価格が更に下落し、2011年9月末以来の安値となった。

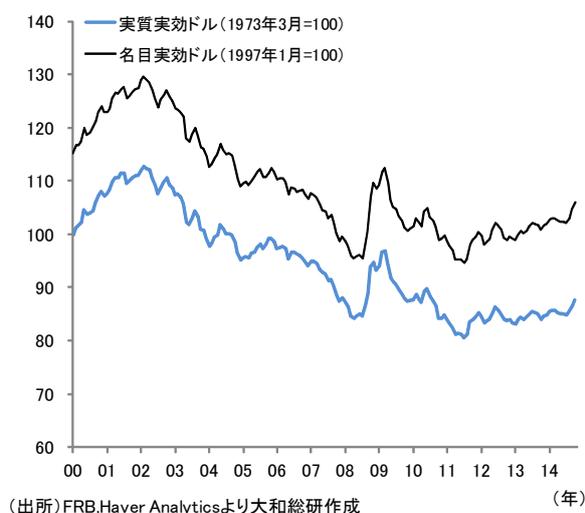
消費者物価指数



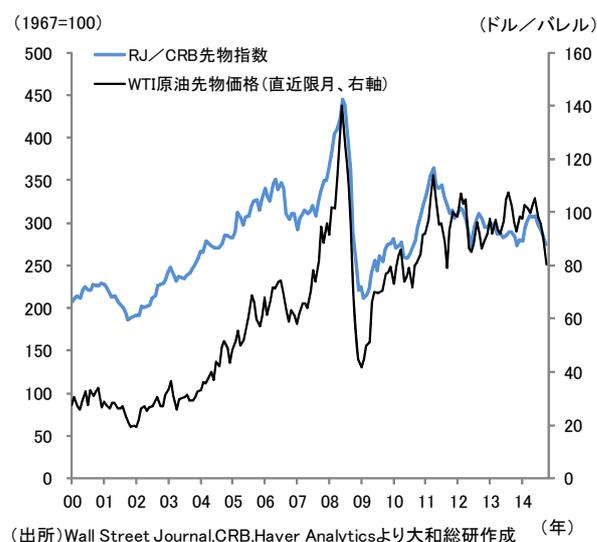
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



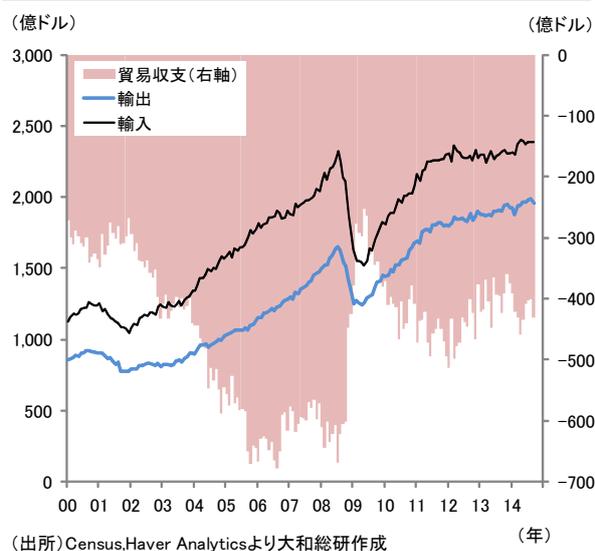
コモディティ価格



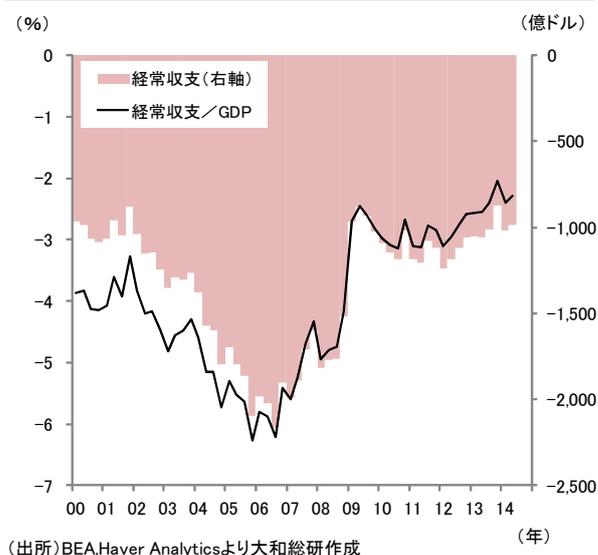
輸出入・経常収支

- ◆ 9月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.5%減少し、輸入は前月と同水準であった。輸出は、食品・飼料・飲料を除き、多くの部門で減少した。輸入においては、消費財が増加した。貿易収支の赤字は、輸出の減少により前月比7.6%増の約430億ドルで、5ヵ月ぶりに増加した。
- ◆ 地域別（財）では、欧州向けの輸出が前年比4.6%減、日本向けは同2.2%減、中国向けは同2.0%減であった。輸入は、中国からの輸入が大幅に増加し、前年比11.8%増であった。欧州からの輸入も同3.9%増加したが、日本からの輸入は減少が続いており、同3.4%減となった。

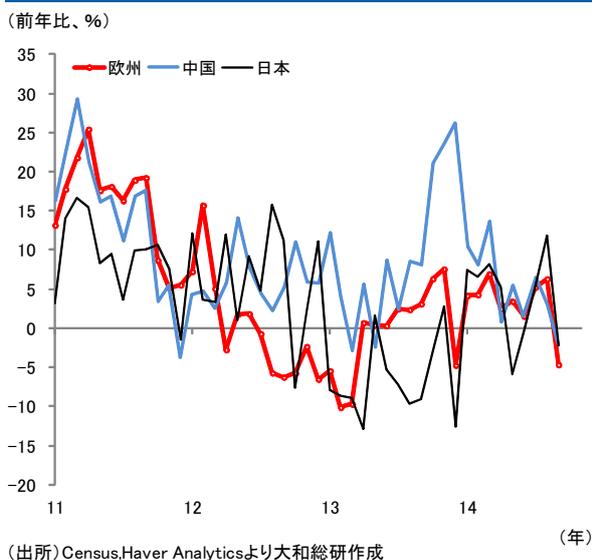
貿易収支動向



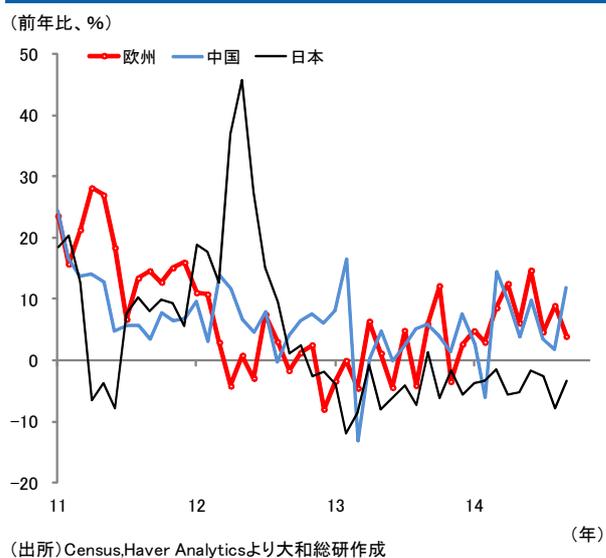
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



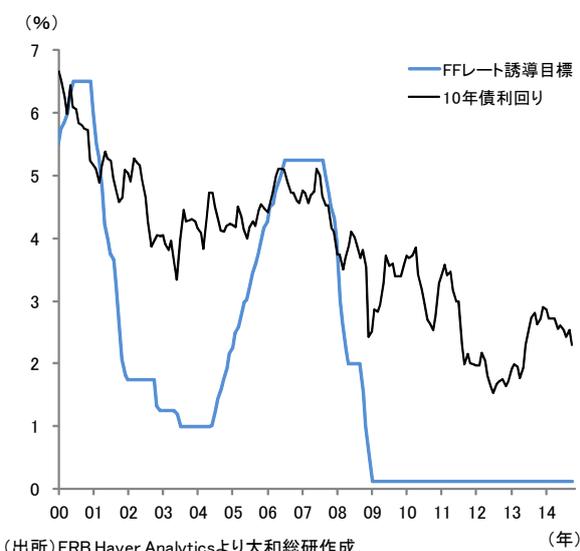
国・地域別輸入動向



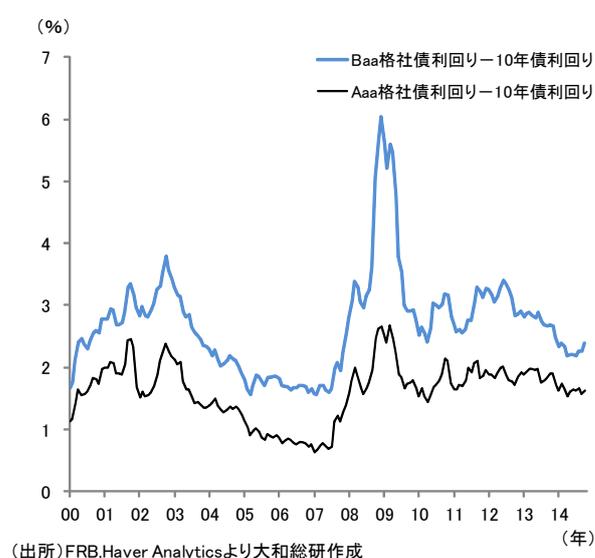
金融・財政

- ◆ 10月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.30%であった。ヨーロッパ経済の景気停滞や原油価格の下落による期待インフレ率の低下、エボラ出血熱への不安などから、国債価格が上昇し、長期金利は低下した。2013年6月の平均値以来の低水準となった。
- ◆ 10月のFOMCにおいて、QE3（量的緩和第3弾）に伴う資産買い入れの終了が発表された。FRBの資産残高は、直近の11月5日の週平均が約4兆5,300億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

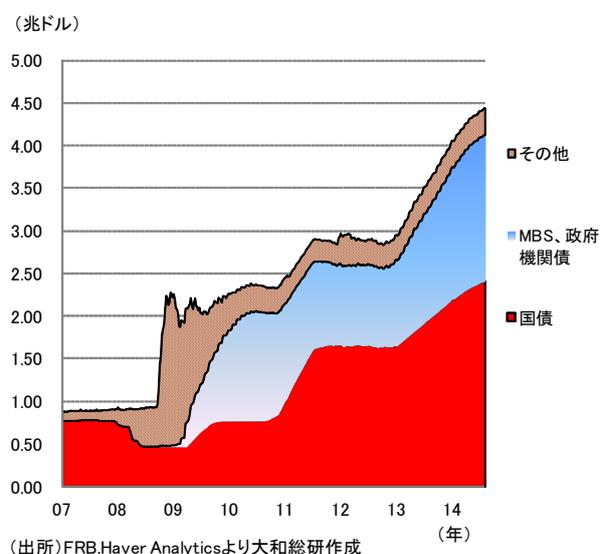
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

